

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-68	中学校	外国語	英語	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	英語002-72	NEW HORIZON English Course 1		



Over the
NEW HORIZON

1 編修の基本方針

GIGAスクール構想対応

英語でつながる心豊かな体験を、みんなで

この教科書は、日本で英語を学ぶ全ての生徒たちが、生涯を通して国際社会で心豊かに暮らすために必要な学びを編修しています。「中学生」の発達段階に十分に配慮しつつ、英語を使って「自分の言葉」で他者とコミュニケーションできる喜びを実感してもらうことを最重要視しました。特に留意したのは次の2点です。

- 英語という言語を通じて、他者とつながる素晴らしい「体験」をたくさん積み上げること
- その活動を通して身につけた技能で、積極的に世界とつながろうとする「心」を育てること

その実現に向けて、誰もが学びたくなる楽しい仕掛けを紙面とデジタル教材に多数用意しています。

1年生のテーマ

中学校英語の世界へようこそ!

この教科書の学びの世界をアドベンチャーワールドに見立て、3年間の旅の出発をイメージしています。

デジタルコンテンツを活用しよう!
この教科書のコードにはもっと英語を使うためのお助けコンテンツがたくさんついているよ。

Word Room / 用例辞典
テーマごとに単語や表現を練習しよう。

Digital Map
日本全国や世界のご当地教材の情報を英語や日本語で読めるよ。

カナダからのビデオレター
カナダの生徒たちが現地の生活や文化を伝えるよ、日本のことも伝えたいね。

Small Talk
話題の向こうから、話しかけてくる友達がいるよ。あなたは英語で何と答えるかな。

Preview アニメ
これから学ぶ英語を使う場面をアニメで見よう。

Key Sentences 解説動画
重要な文法 (Key Sentences) の楽しい解説動画をくり返し見て、英語で表現するのに生かそう!

語順カード
英語で文を組み立てるときに参考にしてみよう。日本語とどうちがうかな。

デジタルクイズ
各Unitに出てくる単語の意味や文の使い方をクイズで確かめよう。

夏休み特集アニメ
小学校から習った英語で、登場人物の夏の思い出を視覚しよう。いろいろな学び方ができそうよ、わくわくするね。

教科書のどのページからのデジタルコンテンツが見られるかな。いっしょに見に行こう!

特色

1

小中接続
重視の教科書

学びの「のりしろ」

特色

2

単元末活動
重視の教科書

学びの地図

特色

3

ダイバーシティ
重視の教科書

学びの多様性

Book 1で、中学生たちは次のように学ぶことができます。

特色

1

小中接続重視の教科書

小中の学びの円滑な接続のために、次のような学びのメソッドを取り入れました。

1 夏休み前までに：紙とデジタルで好きな「学び方」を見つける小中接続期

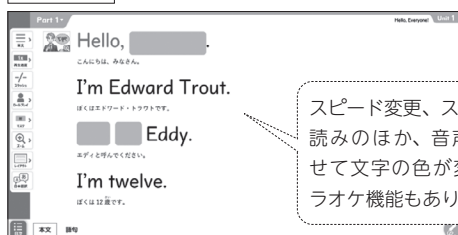
(1) 精選した4つのUnitで、時間的なゆとりを持って小学校の学びを振り返り、確実に学べます。

- ・1年生の前半では発達段階を考慮し、言語材料を整理・精選して令和3年度本で5つあったUnitを4つにし、小学校の既習事項の文法的な理解が容易に行えるよう、よりまとまりを意識した配列にしました。
- ・見開き全体の見た目の文字の分量を減らし、イラストや余白を活用しながら生徒がより主体的に学べるように、紙面を構成しました。
- ・紙面から減らした文字の情報は、練習問題も含み、デジタルコンテンツで扱いました。生徒はそれらを利活用することによって、音声や動画、練習問題のバリエーションを自ら選択し、個別最適な学びを実現できます。

紙 Unit 1 Part 1 (pp.12~13)



デジタル 音読練習用カラオケ機能



スピード変更、スラッシュ読みのほか、音声に合わせて文字の色が変わるカラオケ機能もあります。

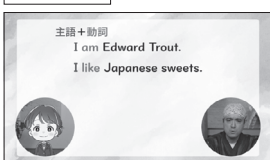
デジタル 語彙学習用マスク機能



語句や文にアミかけをして学べます。

コードを読み込むと、本文と語句の音声や動画を視聴できます。

デジタル 文法解説動画



※Key Sentences用。
ほかにも学びコーナー解説動画（コードは紙面p.3）があります。

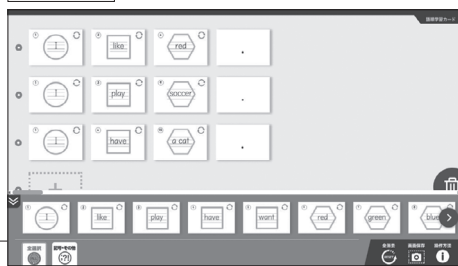
デジタル 文法クイズ



※単語クイズもあります。

※語順カードでは、英語特有の主語と動詞の配列をbe動詞・一般動詞の違いを認識しながら、確認できます。
紙かデジタルかを選ぶことができるので、生徒は自分に合った方法で理解を深めることができます。

デジタル 語順カード



(2) Sounds and Lettersで、小学校で慣れ親しんだ音声を読み書きにつなぎます。

紙 Sounds and Letters 0 (pp.8~9) ほか

デジタル 音素当てクイズ

小学校の学びを受けて、「音とつづりの関係」を確実にします。



※Unitのあとに1つずつあります。

2 夏休み中の自学用に 夏休み特集

小中接続期の学習を登場人物のアニメで整理したり、絵日記を書いたりします。

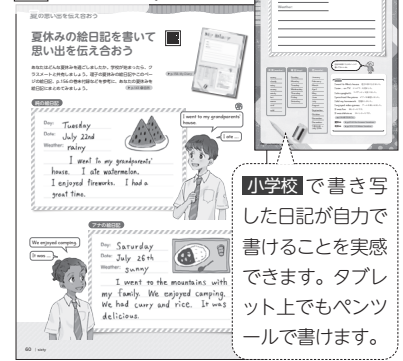
デジタル アニメ『理子たちの夏』(pp.58~59)



小学校以来学んだ表現でできた夏祭りのストーリーを繰り返し視聴して定着できます。



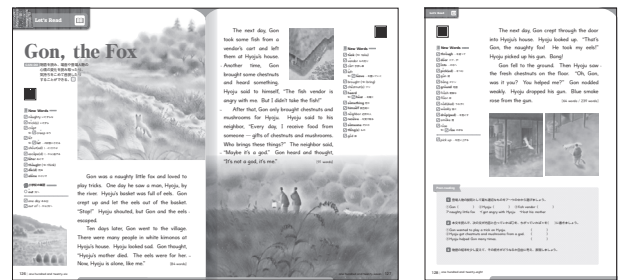
紙 絵日記 (p.60)



小学校で書き写した日記が自力で書けることを実感できます。タブレット上でもペンツールで書けます。

3 1年生の終わりに Let's Read

小学校国語の定番教材『ごんぎつね』で、英語と日本語の違いを読み比べる楽しさを知ります。

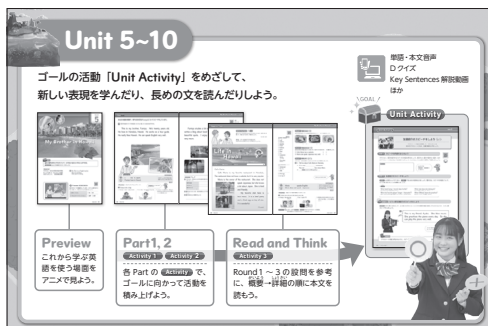


特色 2

単元末活動重視の教科書 (本資料p.7参照)

後半のUnit 5以降に1年生用のRead and ThinkとUnit Activityを設けました。

本文と単元のゴールをより強固につなげ、思考力・判断力・表現力を自然な流れで積み上げます。



紙 学習の流れをイメージしよう (p.1)

- ・単元全体を目的・場面・状況を重視したPreviewアニメで導入し、Part 1→Part 2→Read and Thinkの各見開きパート末のActivityで言語活動を積み上げ、単元末のUnit Activityでまとめる構成です。この流れを3年生の最後まで一貫させ、特別支援教育にも配慮しています。
- ・教科書本文には、Activityの言語活動に必要な表現を取り上げているので、生徒は伝えたい言葉を教科書本文から探し出し、活用する仕組みによって、主体的に学べます。

デジタル

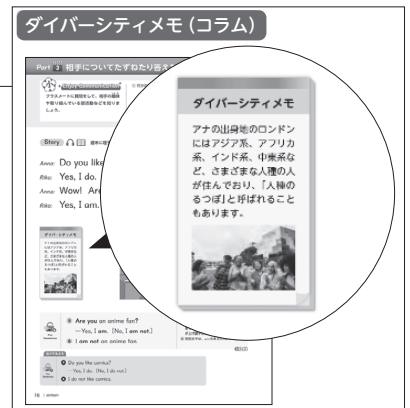
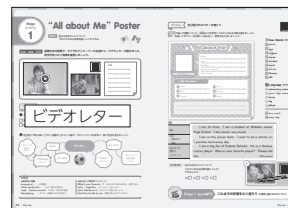
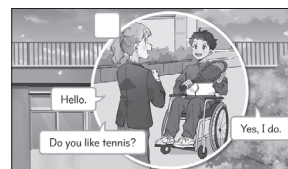
- ・紙の教科書の本文では足りない情報を生徒が自ら検索できる補充単語集やデジタル用例辞典、デジタルマップ(47都道府県や世界のご当地題材)などを搭載。生徒の豊かな自己表現活動をサポートします。

特色 3

ダイバーシティ重視の教科書

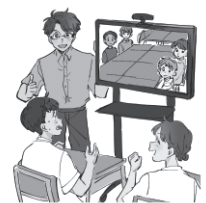
英語の授業で取り扱いたいインクルーシブ教育をめざしました。

- ・取り扱う題材や登場人物の出身地などは、未来の世界を担う中学生たちに、言語活動を通して得た学びによって、多様性が尊重される社会を自らの手で築いてほしいという願いを込めて選定しました。
- ・Unit Activity を積み上げて年3回の大きなパフォーマンス評価に臨む場として設けた Stage Activity では、多様な人種が暮らすカナダの中学生からのビデオレターやVancouver Diversity Channelなどのリアルな体験型動画で、国際交流の疑似体験ができます。
- ・ダイバーシティメモで本文への推論発問を引き出します。



2 対照表

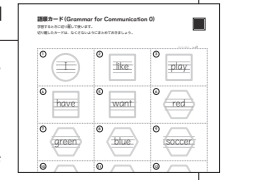
図書の構成・内容	留意点	具体例
<p>全体</p>	<p>①基礎・基本となる文や文構造、文法を系統的に学ぶと同時に、それらを単なる知識としてではなく、目的・場面・状況に合わせて活用できるコミュニケーションの力として育成することをめざしています。(第1号)</p> <p>②各Unitで取り上げる題材を通して、異なる文化の発想や考え方を知り、広い視野でものごとをとらえる力や相手の立場に立って理解しようとする態度を育成します。(第1号)</p> <p>③生徒の心情に訴える題材を取り上げ、友情や国際協力などの道徳心を培うように配慮しています。(第1号)</p> <p>④巻末の語彙集や資料では、生徒の興味関心に広く訴えるものを取り上げ、豊かな自己表現を促します。二次元コードには検索機能のあるデジタル用例辞典も用意しています。(第1号)</p> <p>⑤Real Life Englishでは言語の使用場面や働きを踏まえたコミュニケーション活動を行い、実生活に生かすことができます。(第2号)</p> <p>⑥Unitの中に働く人の姿を盛り込み、働くことに関する意識の醸成をめざしています。(第2号)</p> <p>⑦1年間を通して、キャラクターたちが活躍するストーリーが繰り広げられます。生徒は、自らの学校生活や家庭生活と重ねて学習が進められます。(第2号)</p> <p>⑧対話的な学習のために、ペアやグループで取り組むコミュニケーション活動を豊富に用意し、相手意識を持ってコミュニケーションを行ったり、相手の立場に立って考えたり、協力し合ったりする態度を育みます。(第3号)</p> <p>⑨イラストや写真を含め、男女が協力して家庭生活を営む様子を取り上げています。かつ、社会で働く人の姿についても男女を取り上げています。(第3号)</p> <p>⑩自然を大切にしたり、環境の保全に心がけたりするような題材を取り上げています。(第4号)</p> <p>⑪世界に日本の良さを発信しようとする生徒を育成するため、わが国の伝統や文化、自然に関する題材を取り上げています。(第5号)</p> <p>⑫国語との関連を図り、日本語との関連から、英語について学べるような資料を掲載し、言葉への豊かな感性と情操を育成します。直前のLearning Literature in Englishで国語で学ぶ物語の文章構成を理解する方法を英語に当てはめ、実際にLet's Readを読むようにしています。(第5号)</p> <p>⑬グローバル社会で生きることを意識し、海外の生活や文化を理解した上で、尊重する心を育み、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養います。(第5号)</p>	<p>①p.12 Unit 1 「Hello, Everyone!」のEnjoy CommunicationとKey Sentences</p> <p>②pp.43~49 Unit 4 「Friends in New Zealand」</p> <p>③pp.91~98 Unit 8 「Think Globally, Act Locally」</p> <p>④pp.140~147 Word Roomとデジタル資料集</p> <p>⑤p.99 Real Life English Scene 4 「レストラン-注文する-」</p> <p>⑥p.93 Unit 8 「Think Globally, Act Locally」</p> <p>⑦p.11 Unit 1 「Hello, Everyone!」</p> <p>⑧p.61 Unit 5 「My Brother in Hawaii」</p> <p>⑨p.84 Unit 7 Part 2 Practice①料理をする父のイラスト、p.107 Unit 9 Part 2 年末大掃除をする兄妹のイラスト</p> <p>⑩pp.91~98 Unit 8 「Think Globally, Act Locally」</p> <p>⑪pp.71~78 Unit 6 「A Rakugo Performer from the UK」</p> <p>⑫pp.126~128 Let's Read 「Gon, the Fox」</p> <p>⑬pp.91~98 Unit 8 「Think Globally, Act Locally」</p>



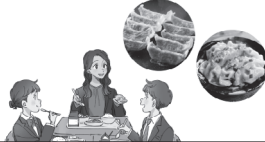
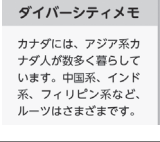
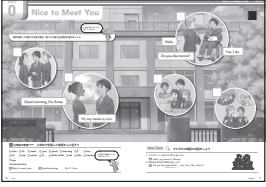

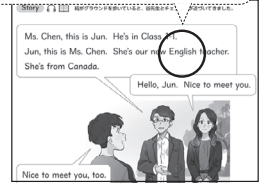
3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 全ての生徒が使いやすい紙面への配慮

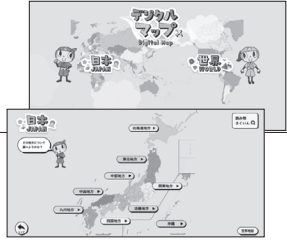

観点	留意点	具体例
<p>①特別支援教育への配慮</p>	<p>①二次元コードをパートごとに配し、音声学習に取り組みやすくしています（前見返しに示すコードより全てのコンテンツにアクセス可能）。また画面を拡大したり、ルビをつけたりして、視聴覚や言語の面から誰一人取り残さないためのデジタル教材を用意しています。</p> <p>②視認性や書きやすさに配慮された書体を1年生のほぼ全体を通して使用しています。また、夏休み前までの小中接続期では、回答欄に4線を使用しており、中学校での文字指導に配慮しています。</p> <p>③本文やNew Words、Key Sentencesなど、紙面上の要素のデザインや配置を統一しているため、学習の流れを見通すことができ、安心して学習に取り組めます。</p>	<p>① p.7 Unit 0 「Nice to Meet You」</p> <p>② p.13 Unit 1 「Hello, Everyone!」</p> <p>I'm I like</p> <p>③ pp.61~68 Unit 5 「My Brother in Hawaii」</p>
<p>②ユニバーサルデザインへの取り組み</p>	<p>①Unit、Real Life English、Stage Activityの単元を定期的に配列し、学習のユニバーサルデザイン化を図っています。</p> <p>②二次元コードや学習者用デジタル教科書と紙の教科書を併用し、誰もが個別最適に学べるコンテンツを用意しています。【本資料p.2参照】</p>	<p>① pp.4~5 目次 「学習の見通しを立てよう」</p> <p>② p.69 Real Life English Scene 1 「コマーシャル」</p>
<p>③造本上の工夫</p>	<p>①巻末の語順カードは、生徒が切り取って語順を理解するのを助けます。デジタル版も用意しています。</p> <p>②生徒が自己表現に必要な情報を検索できる資料を紙とデジタルにふんだんに用意しています。</p> <p>③ページ数を抑えた上、最大限に軽量化された、薄くても裏写りにくい用紙を使用しています。</p> <p>④特殊な糊を使って製本し、ページが大きく開くため、外側に折り返して手に持っても、ページがはがれず、堅牢なつくりです。</p> <p>⑤印刷は鮮明で、豊富な写真やイラストを効果的に配置しています。</p>	<p>▲デジタル版は本資料p.2参照</p>



(2) 今日的な課題への取り組み

観点	留意点	具体例
①防災・安全	3年間を通して関連する教材を扱うなどして、防災や安全の視点を重視しています。	p.98 Unit 8 「Think Globally, Act Locally」 Unit Activityのポスター
②環境・資源・エネルギー	題材の中で、自然と触れ合ったり、その大切さを感じたりするような場面を取り上げています。	p.118 Unit 10 「This Year's Memories」
③多様性・人権への配慮	「ダイバーシティメモ」として、多様性について気づきを促すコーナーを設けています。題材や人物の出身国は、英語圏や非英語圏、日本とできるだけ 多様な世界の国々からステレオタイプを避けて設定 しています。それぞれの国の良さや違いを感じたり、言語や文化に対する理解を深めたりすることができます。また 男女のバランス にも配慮しています。 	p.22 ダイバーシティメモ 扱う国や地域、人物：ニュージーランド (Unit 4)、ハワイ (Unit 5)、イギリス (Unit 7)、ケニア (Unit 8)。南アフリカ共和国出身の白人エディ、中国系カナダ人のチェン先生ほか 
④伝統・文化	日本の 伝統・文化の良さを海外に発信 したり、逆に、日本に住んで、 伝統・文化に取り組む海外の人を紹介し、自国への理解を深めたり します。	pp.71~78 Unit 6 「A Rakugo Performer from the U.K.」
⑤SDGs・道徳教育との関連	多様な国々を取り上げることで世界へ目を向け、視野を広げ、それぞれの国が大切にしていること の理解につなげて います。	pp.91~98 Unit 8 「Think Globally, Act Locally」
⑥小中高の連携	①小中高の連携を図るため、学習指導要領をもとに 東京書籍版CAN-DOリスト を作成し、それに則って学習目標を設定しています。また、小学校と中学1年生の各学期の目標を5領域別に示しています。 ②1年生では、小学校との円滑な接続のために十分な期間を取り、 小学校の音を中心とする学習から、中学校における4技能5領域の力をバランスよく育成する学習へと移行 できる構成です。また Sounds and Lettersでは小学校の単語を集中的に学び、後続のUnitパート内での 単語学習の負担を軽減 します。  ▲pp.6~7 Unit 0 「Nice to Meet You」  ▲p.18 Sounds and Letters 1  ▲p.20 Unit 2 「Our New Teacher」	①巻末CAN-DOリスト ②pp.6~55 小中接続パート 「English」という単語はUnitの直前の Sounds and Lettersで既習語になるため言語材料の パート当たりの負担は軽くなります 。
⑦言語力の育成	①言語力を育成するために、「学び方コーナー」で日本語との違いに触れるなど、 国語を意識した学習 ができます。 ② 文学作品 を扱い、国語との連携を図っています。	①p.3 学び方コーナー4 「音のちがいがい」 ②pp.126~128 Let's Read 「Gon, the Fox」

(3) 学校教育を取り巻く諸課題への取り組み

観点	留意点	具体例
①先生がたの働き方改革への貢献	① 1ページあたり1時間を基本 とし、時間配当や年間指導計画を把握しやすい構成にしています。 ②各Unitのパート構成を同じにしているため、 学習の流れを見通し しやすくなっています。【本資料p.7参照】 ③活動で発話・対話したり、書いたりする際の 例文を、紙とデジタルそれぞれの特長を生かし、活用しやすく豊富に用意 しています。	①pp.4~5 目次「学習の見通しを立てよう」 ②pp.19~25 Unit 2 「Our New Teacher」 ③pp.54~55 Stage Activity 1 「“All about Me” Poster」
②カリキュラム・マネジメント・地域連携	デジタルコンテンツを活用しながら 個別最適な学習 ができるように、紙面の文字量を調整し、生徒が自分自身の学習活動に 能動的に関わり たくなる工夫を随所に施しています。デジタルマップは地域での方針に沿って伸縮自在に 複式学級や少人数授業、家庭学習 に活用できる読み物教材です。	
③GIGAスクール構想の推進 (個別最適な学び・協働的な学びのために)	①紙面や学習者用デジタル教科書の両方に付した二次元コードから 本文と語句欄の音声 (スピード変更、スラッシュ読み、カラオケ機能、マスク機能付き) や 文法解説動画などを視聴 することで、学校でも家庭でも音声や動画を活用した学習ができます。また、Key SentencesやNew Wordsの補充問題や デジタルワークシート、デジタル用例辞典 もあり、 思考ツール、デジタルマップ などは協働学習に使えます。※詳細は第2・3学年編修趣意書各p.2参照 ②Unitの最初に配置しているPreviewには、二次元コードからアニメーションと音声を視聴できるので、そのUnitで扱っている文法項目を使う「目的・場面・状況」を予想することができ、 意味のある文法学習の導入 となります。 ③ 制度化された学習者用デジタル教科書 の使用によって、必要な部分を大きく見たり、音声へのアクセスが簡単にできたり、日本語訳を活用した学習ができたりするため、英語学習における 最適な学びの環境 を全ての中学生に保障します。	

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配合授業時間数表)

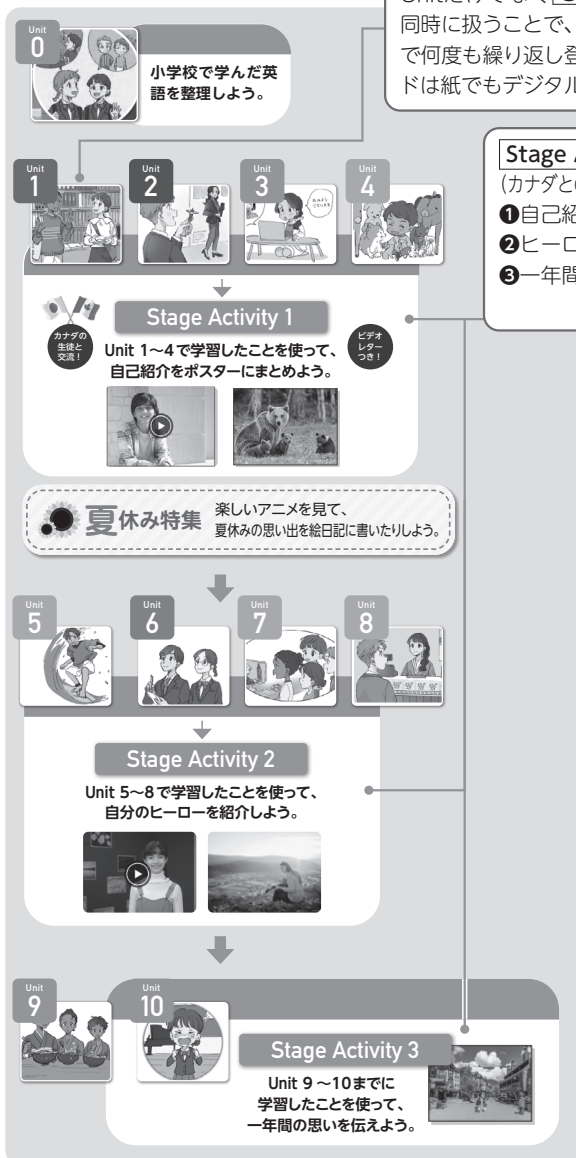
受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105-68	中学校	外国語	英語	第1学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
2 東書	英語002-72	NEW HORIZON English Course 1		

1 編修上特に意を用いた点や特色

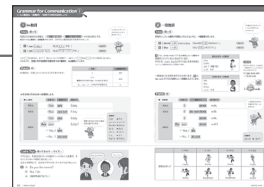
**中学1年生の学びから、
誰一人取り残さない英語教育** をめざした教科書です。
令和の日本型学校教育を実現するために、この教科書には次のような工夫があります。

1 Activityを積み上げて単元末のゴールの姿を評価

年間指導計画（縦軸）の流れ

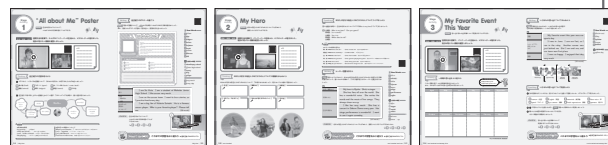


Unitだけでなく **Grammar for Communication** でもbe動詞と一般動詞を同時に扱うことで、その違いを認識しやすくしています。さらに、本文の中で何度も繰り返し登場させるため、適切に使えるようになります。語順カードは紙でもデジタルでも活用できます。



Stage Activity 年間を大きな3つのテーマでまとめる、バックワードデザインでタスクを構成 (カナダとの交流を擬似体験)

- ①自己紹介
- ②ヒーロー紹介
- ③一年間の思い出紹介



一 活動を積み上げる手順がわかり、学習が見通せる全体構成 一

この教科書では、年間指導計画（縦軸・左図）と単元のまとめ（横軸・本資料p.7）とが規則性をもって設計されています。この構造のもとで、学習の流れが見通せ、目標（入口）と評価（出口）の場所が明らかになるため、CAN-DOリストに沿ったわかりやすい手順で確実に力をつけることができます。



[5領域をバランスよく育成]

単元	パート	聞く	読む	やり取り	発表	書く	
Unit	扉 (Enjoy Listening / Preview)	◎					単元導入のためのリスニング
	Enjoy Communication (Unit 1～4のみ)	○		○	◎		小学校の表現を使った活動
	Part 1～3 (1はUnit 1～4のみ)	○	◎	◎	○	○	本文と、場面のある代入練習
	Before You Read / Read and Think (Unit 5～10のみ)	○	◎	○	○	○	Partの本文を受けて、読み物 (Read and Think) を読むに至る目的・場面・状況を導くリスニングと本文
	Unit Activity	○	○	○	◎	◎	単元末活動
Sounds and Letters		○	○			○	音と文字のつながり
Stage Activity		○	○	◎	◎	◎	4技能統合、定番テーマでのまとめ
Real Life English / Let's Read		◎	◎	◎		◎	実生活密着の英会話など / 読書
Grammar for Communication		○	○	○		○	文法の整理

英語で伝え合う生徒の「体験」を積み上げる教科書です。

音声で「導入」、重要表現で「展開」、単元末活動で「まとめ」、見通せる単元配列で目標と評価に対応します

単元のまとめ（横軸）の流れ

- 語彙・言語の使用場面と働き・題材を、各学年テーマのもとで難易度の低いものから徐々に高いものへと系統的に繰り返し練習できるので、生徒は学びが積み上がる実感を持てます。
- 技能別、あるいは4技能を適宜統合・総合する活動をそれぞれのパートで繰り返し行うことで確実に定着を図ることができ、単元末活動のUnit Activityでついた力を確かめられます。
- 単元末活動で使いたい表現は本文に立ち返ってヒントを探ることができるように、下図のActivity1～3・Unit Activity・Stage Activityのタスクと本文を設定しています。

目標の明示

GOAL

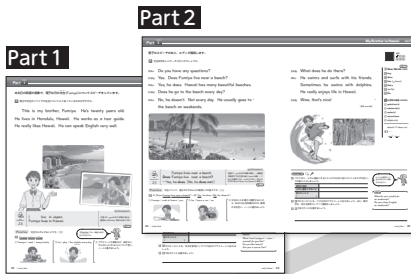
自分と相手以外の人やものについて、たずねたり伝えたりすることができる。

Unit Activity (p.68)「友達紹介のスピーチをしよう」

扉



[導入：p.61]



[展開①：Part 1 pp.62～63]
[展開②：Part 2 pp.64～65]

Activity 2 積み上げ2

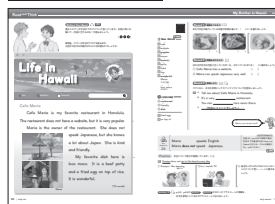
Activity 1と同じ要領で、相手がふだん週末にすることとそれ以外に知りたいことをたずね合う。

Activity 1

積み上げ1

ペアになり、相手が好きなこととそれ以外に知りたいことをたずね合う。聞き取ったらメモを取り、教科書本文を参考にしてペア以外のクラスメートに伝える。最後に伝えたことを書く。

Read and Think



[展開③：Read and Think pp.66～67]

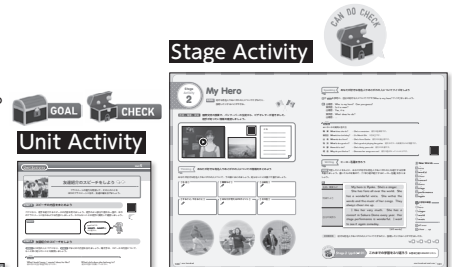
Activity 3 積み上げ3

Activity 1と2でわかったクラスメートの情報を、教科書本文を参考にほかのクラスメートに伝える。

Unit Activity

積み上げ4：生徒の姿を評価

Activity 1～3の情報を振り返り、クラスメートの魅力をスピーチで伝え、友情の輪を広げる。



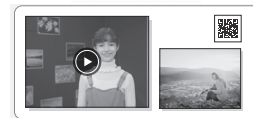
[まとめ②：Stage Activity pp.100～101]
パフォーマンス評価

[まとめ①：Unit Activity p.68]

Stage Activity=My Hero

積み上げ5：生徒の姿を評価

好きな有名人やあこがれの人のについて、カナダの中学生とのビデオレターのやり取りの疑似体験を通して伝える。



巻末の資料編pp.140～147では、言語活動のヒントとなる語彙を参照できます。コードから音声も聞けます。また、Unit Activityのコードからは、活動のヒントとなる教科書本文を検索できるデジタル用例辞典にアクセスできます。

2 自己表現を助ける資料をデジタルでも！

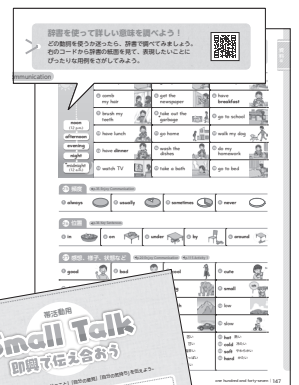
— 伝えたいことを工夫して、「自分の言葉」にできる表現集・用例辞典 —

- デジタル用例辞典は教科書本文を用例のモデルとして呼び出せる機能です。生徒は3学年分の用例を見ることができ、収録語数は約1,000語、収録表現数は約300種類です。

3 即興力を育成するための様々な仕掛け

— 教科書を学ぶのではなく、教科書で学ぶために —

- 巻末のSmall Talkは、帯時間や休み時間に、気軽に英語が生徒の口から飛び出すような教室をイメージして設けたページです。自由に、楽しく、即興で話せるための練習用コンテンツもデジタルに用意しました。教科書本文に絡めて、中学生が話したくなるようなテーマで表現を特集しています。





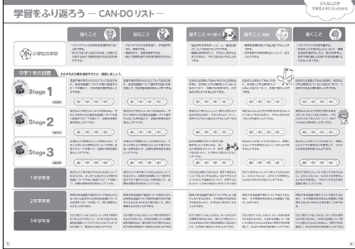


[p.147]

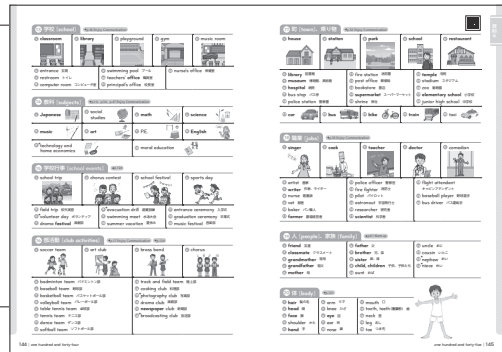


[p.157]

観点別特色の一覧

観点	具体例
<p>①教育基本法の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書の内容全体を通して、グローバル時代に生きる全ての中学生に求められるコミュニケーション能力を育みます。英語を学ぶことで身につく見方・考え方が国や文化の違いを越えて人と人を結び豊かなコミュニケーションをもたらす可能性に気づき、グローバルな視点での発言や行動に結びつけていくことをめざしています。(全体) ●国際社会の一員として、自国の伝統・文化を尊重するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしています。(前見返しなど) ●教育基本法の第2条を遵守しています。(本資料p.4参照)
<p>②学習指導要領の遵守</p>	<p>▶「目的や場面、状況」に  についての意識を促すアイコン</p> <p></p> <ul style="list-style-type: none"> ●中学校学習指導要領（外国語科）に示された目標に則り、コミュニケーション能力の育成をめざし、その基礎となる言語材料の知識と技能を基盤として、生徒が自分で思考し、判断したことを適切に表現できることを深い学びととらえ、順を追った活動を組み込んでいます。(全体) ●文法はコミュニケーションを支えるものとして、どのような目的や場面、状況で使われるかを生徒が理解することを重視しています。(Unit 5～10 Previewなど) ●英語で意思や情報を伝え合う対話的な活動や協働して問題解決にあたる活動を充実させ、対話的な学習を促しています。さらに、話されたり書かれたりしたことの意図や背景を推測したり、自分の考えを深めてそれを表現につなげたりするようなコミュニケーション活動を充実させています。(Unit 5～10 Unit Activityなど)
<p>③内容・系統</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●3年間の学びを見通した上で、中学1年生での到達点（ゴール）を示しているため、豊富な言語活動を通して明確な到達点に向かって学習を進めることができます。(前見返し～p.1 「学習の流れをイメージしよう」、巻末口絵学習をふり返ろう—CAN-DOリスト—) ●全ての単元の冒頭に必ず到達点（ゴール）を単元の目標とセットで示しています。また、Unitの単元末活動として配置されたUnit Activityの最後にも同じ文で、振り返りや自己評価を行うチェック欄をアイコンとともに載せています。 ●生徒が学びたくなる題材、やってみたくなる活動を豊富に取り上げ、積極的に英語を使う授業の場づくりに資するようにしています。 ●Unitの各パートのActivityを積み上げ、その各パートで積み上げた「自分の言葉」を生かして、単元末活動のUnit Activityでまとめます。さらには、年3回設定されている大きなテーマを扱うStage Activityに向かって、活動を系統的に積み上げていく構成です。 <p> </p> <p></p> <p>Activity (Unit内の各パート末) ⇒ (積み上げて) Unit Activity (単元末) ⇒ (積み上げて、複数のUnitを統合・総合して) Stage Activity (年3回) という順で、全体を通してStage Activityに向けて活動を系統的に積み上げています。いずれもパフォーマンス評価を行うことができます。(本資料p.7参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小中接続期の言語材料の配列について、生徒が構造上より理解しやすいようにまとまりをつけて配列し直し、整理・精選してUnitを1つ削減しました。令和3年度本：Unit 1 (be動詞 / 一般動詞 / can) → Unit 2 (This [That / He / She] is / 疑問詞 what・who・how) → Unit 3 (疑問詞 where・when / I want to / how many) → Unit 4 (命令文 / what time / what+名詞) → Unit 5 (前置詞 / 動名詞 / 不規則過去形)、令和7年度本：Unit 1 (be動詞 / 一般動詞) → Unit 2 (He [She] is / can / This [That / It] is) → Unit 3 (疑問詞 what・who・how・when・where / 前置詞) → Unit 4 (how many / what time / what+名詞 / 命令文) ※ want toなどは表現として扱い、文法事項として学習するのは夏休み後。 ●「夏休み特集」を新設し、GIGAスクール構想のもとで、アニメのデジタルコンテンツを活用することにより、自立した英語学習者の育成に向けた教材開発に取り組みました。
<p>④組織・配列・分量（スパイラル・学年間接続など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆組織・配列 ●全てのUnitは、既習事項をスパイラルに学習できる構成になっています。Unit 0は小学校の学習を引き継ぎ、Unit 1～4では小学校との関連を密接に図って「表現から文法へ」と理解を深め、Unit 5～10では中学で初出の文法を学習します。どのUnitも、音から導入して文字に向かう順序で4技能5領域全てをバランスよく扱います。(本資料pp.6～7参照) ●「学び方コーナー」では英語学習のポイントやコツをいつでも参照できるように巻頭にまとめ、生涯英語を学ぶ主体的な学習態度を育成することをめざします。1年生では、語彙を増やすための「辞書の使い方」や、知らない単語でも読み方を予測しやすくなるための「単語のつづりと発音」などを扱います。(pp.2～3) ◆分量 ●小学校英語が教科化されたことを重視し、また実社会で目にする英文に触れられるように、教科書で扱う分量を段階的に増やしています。同時に、後半では中学校3年間で扱うべき組織や分量を想定して英文の量や活動の種類についても段階的に充実させています。(全体) ●語彙は、小中学校の教科書やCEFR-Jの語彙リストのA1レベルを中心に選定しています。小学校で学習したとみなされる語を630語と設定し、それに中学校の新出語約1,700語を加えた約2,300語を扱っています。(pp.130～139 Word Listまたは本一覧表p.9④の図参照)

観点	具体例		
<p>④ 組織・配列・分量（スパイラル・学年間接続など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●上記約2,300語のうち小学校既習語から392語、中学校新出語から408語の合計800語を「発信まで使えるようになりたい語」と設定し、Word Listで太字で示しています。この800語は、全ての生徒の発信語彙として繰り返し提示して定着できるようにしています。（下図★印参照） ●中学校新出の1,700語は、教科書本文だけでなく本文以外の部分で扱う語も含めることで、生徒の負担を軽減しています。（資料編Word Roomなど） <p style="text-align: center;">小・中学校で扱う語約2,300語 ※★は「発信まで使えるようになりたい語」（合計800語）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;"> 小学校の既習語 630語 (★392語) </td> <td style="text-align: center;"> 中学校の新出語 約1,700語 本文 約1,200語 本文以外 約500語 (★408語) </td> </tr> </table>	小学校の既習語 630語 (★392語)	中学校の新出語 約1,700語 本文 約1,200語 本文以外 約500語 (★408語)
小学校の既習語 630語 (★392語)	中学校の新出語 約1,700語 本文 約1,200語 本文以外 約500語 (★408語)		
<p>⑤ 基礎的・基本的な知識、コミュニケーションの4技能5領域の定着の配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●CAN-DOリストに基づき、3学年を通して4技能5領域の技能を確実に育成できるようにバランスよく教材を配置しています。（本資料p.6参照） ●「Unit」・「Stage Activity」・「Real Life English と Let's Read」の3つの主要単元で、知識・技能の習得と活用を繰り返しながら思考力・判断力・表現力等の育成をめざします。いずれの単元でも、言語を使用する目的・場面・状況を意識して活動に取り組めるような仕組みにしています。（本資料p.6参照） 		
<p>⑥ 資質・能力の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●変化の激しいグローバルな社会で生きていくための資質・能力を重視し、英語を通じて異文化理解を深めたり、多様性を認めたりするとともに、他者への共感や思いやりを持って共生社会の実現をめざす態度を育成します。（全体） ●各学年にテーマを設け、題材で扱う範囲を身近な話題から社会的・世界的な話題へと段階的に重心を移しています。1年生のテーマは、「中学校英語の世界へようこそ!」とし、小学校で初めて出会った英語を使って、さらにその先の中学校でも学び続ける楽しさを味わってほしい、そして世界中の人との理解や共感を得られる英語学習への意欲をより一層高めてほしいという願いを込めています。（全体） ●技能と文法を車の両輪のように考え、学習段階に合わせた言語活動を扱っています。その言語活動を通して、使える英語が身につくようにしています。（本一覧表 p.8の③参照） 		
<p>⑦ 学習方法・授業展開への配慮（アクティブ・ラーニング、ALTとのTeam Teachingなど）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各紙面において学習要素を定位置に置き、特別支援教育への配慮をしています。紙面右上の二次元コードからは、本文と語句欄の音声のほか文法解説動画やデジタルクイズなどにもアクセスできます。（p.13 Unit 1、p.63 Unit 5など） ●英語で授業を行うことに配慮し、ペアやグループ活動を充実させたり、帯活動で継続的に行って即興的なやり取りの力をつけるためのSmall Talkのページを設けたりしています。（pp.157~160）また、ALTとのTeam Teachingを重視して、ALTと伝え合いたくなる話題を多く取り扱い、教師用指導書には発問の英訳を掲載します。 		
<p>⑧ 学習の習慣化への取り組み（規律・態度など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●資料編のWord Roomでは、紙とデジタルの両方に語彙をジャンル別に豊富に示し、自分が伝えたいことを表現するときに使えるようにしています。（本資料p.7参照） ●授業以外の場でも英語の音声や動画を視聴できるよう、二次元コードを付しています。（p.11 Unit 1など）二次元コードを利用できない場合は、前見返しに示すURLからアクセスすることができます。教師用指導書付属のメディアにも音声を収録します。 		
<p>⑨ 言語に関する配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●言語育成への視点から、国語との関連を図っています。物語の読み方を扱ったページのすぐ後にLet's Readを配置し、物語の構成が読み取りやすくなるようにしています。（p.123 Learning Literature in English、pp.126~128 Let's Read） ●発表する際のポイントを示したり、メモをもとに発表する例を示したり、相手の発言に対して質問し、会話を続けてコミュニケーションを深める例を示したりしています。（pp.100~101、pp.124~125 Stage Activity 2、3など） 		
<p>⑩ 他教科との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●CLIL（内容言語統合型学習）への対応として他教科での学習を生かすもの、現代的な諸課題に対応するものなどを扱い、生徒の理解を深めるようにしています。（全体） ●「ダイバーシティメモ」などのコラムの充実を図り、様々な気づきから、本文への推論発問を引き出せるように工夫しました。（p.12 Unit 1など） 		
<p>⑪ 造本上の工夫（学習への効果）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●指導時間を配当するページは増やさず、生徒が発信するためのヒントを探し出す資料を紙とデジタルで手厚く用意しました。 ●A4判を採用し、デジタルでは対応できない手書きでの書き込みスペースを保障しました。（p.33 Your Turnなど）また、判型を大きくして写真等のレイアウトやデザインをダイナミックに、かつ見やすくしました。 ●ページ数を抑えた上、最大限に軽量化された薄くても裏写りしにくい用紙を使用しています。 ●「夏休み特集」（pp.57~60）は紙質を本文用紙と変更しました。これにより、小中接続期と、夏休み明けの中学校英語で新出の三人称単数現在形などが加わるページとを生徒がしっかりと認識して学べるように工夫しています。 		



2 対照表

1年	図書の構成・内容・主な言語材料		学習指導要領の内容		該当箇所 ページ	配当 時数
			2 内容	3 指導計画の 作成と内容 の取扱い*		
Unit 0	Nice to Meet You 小学校のふり返り	小学校で習ったあいさつなどの表現	(1)、(3) ①ア		6~7	1
Unit 1	Hello, Everyone! 中学校生活の始まり	be動詞 / 一般動詞	(1)、 (2)、(3) ①アイウエ オカ、②	(2) イエ (3) イ (ア) (イ)	11~17	6
Unit 2	Our New Teacher ALTのチェン先生	He [She, This, That, It] is ... / canの文			19~25	6
Unit 3	Our School 学校生活	What [Who, How, Where, When] ...? / 前置詞			31~37	6
Unit 4	Friends in New Zealand ニュージーランドの 学校との交流	How many...? / What+名詞 [What time] ...? / 命令文(Come [Be, Don't])			43~49	6
Unit 5	My Brother in Hawaii 兄の文也の紹介スピーチ	三人称単数現在形			61~68	7
Unit 6	A Rakugo Performer from the U.K. 英語で落語	人称代名詞目的格 / Whose ...? / mine [yours] / Which ...?	(1)、(2)、 (3) ①イウ エオカ、②	(2) エカ (3) イ (ア) (イ) (ウ)	71~78	7
Unit 7	An Online Tour of the U.K. オンラインツアー	現在進行形 / 感嘆文			81~88	7
Unit 8	Think Globally, Act Locally 国際支援・水問題	want [try, needなど] to ... / look+形容詞			91~98	7
Unit 9	Winter Vacation 冬休みの過ごし方	一般動詞の過去形			103~110	7
Unit 10	This Year's Memories 中学校一年間の思い出	be動詞の過去形/ 過去進行 形 / There is [are]			113~120	7
Stage Activity	1. "All About Me" Poster		(1) ウ、 (2)、(3) ① イウエオカ	(2) カ	54~55	2
	2. My Hero				100~101	2
	3. My Favorite Event This Year				124~125	2
Real Life English	1. コマーシャル、2. 友達の家で、3. 道案内、 4. レストラン、5. 旅先からの便り、6. 病院にて		(1) アウ、 (3) ①イウ エカ、②	(2) イ	69、79、 89、99、 111、121	各1
Let's Read	Gon, the Fox		(1) ウ、 (2)、(3) ①ウ	(3) イ (ア) (イ)	126~128	3
Sounds and Letters	0. 英語の音と文字、1. 2字1音・母音字の名前読み、2. さ まざまな母音①、3. さまざまな母音②、4. 音と文字のまとめ		(1) ア、 (3) ①ア	(2) イ	8~9、18、 26~27、 38~39、 50~51	各1
Grammar for Communication	0. 英語の語順、1. be動詞と一般動詞、2. 疑問詞、 3. 名詞、4. 三人称単数現在形、5. 代名詞、 6. 現在進行形、7. 一般動詞の過去形、 8. be動詞の過去形と過去進行形		(1) エ	(2) エ	10、 28~29、 40~41、 52、70、 80、90、 112、122	各1 1と 2は 各2
Learning Literature in English			(3) ①イウ	(1) オ	123	1
合計99						

*学習指導要領の内容「3 指導計画の作成と内容の取扱い」について、特記のない項目は図書の構成全体について扱う。